



ネギ、枝豆を横浜市場でトップセールス

8月17日(木)、当JAと秋田市、男鹿市、潟上市で構成する秋田中央地域地場産品活用促進協議会(通称・農家のパーティネットワーク)によるトップセールスが、横浜丸中青果(株)で行われました。出荷最盛期に入るネギと枝豆の品質の高さや産地の意気込みなどを、市場関係者にPRしました。

佐藤広美組合長や穂積志秋田市長、菅原広二男鹿市長、鈴木雄大潟上市長が、自然豊かな土地柄や産地振興への取り組みなどをそれぞれ語りました。産地が一丸となって食味向上に取り組ん

でいる管内産品を、親しんでくれるよう呼び掛けました。市場内の特設会場には、当JA産の両品目が展示されました。ネギの生産者やJA全農あきた、秋田県産青果物キャンペーンガール「ミス・フレッシュ秋田」や「なまはげ」も参加し、試供品のネギと枝豆を配布すると人だかりができ、市場関係者が笑顔で受け取りました。



1 ……当JA産品の品質のよさをPRする佐藤組合長
2 3 ……市場関係者への試供品の配布が盛況となりました



梨の霜害乗り越え糖度上々

当JA管内で梨の出荷が始まり、昨年より1日早い8月24日(木)に、天王梨選果場で「幸水」20ケースの初選果が行われました。同地区を皮切りに他地域でも始まり、秋田市場や横浜、名古屋方面に出荷しています。管内産の梨は、4月に発生した霜害の影響で出荷量が減少する見込みです。加えて小玉傾向となつていますが、生産者によると昨年より糖度が高く、甘く仕上がっているとのこと。出荷前の目揃え会では、生産者が実際に糖度を測定したり試食したりして、今年の梨の品質を確かめました。

☑️「幸水」の品質基準を確かめる生産者



秋物農機を展示

8月21(月)と22日(火)に追分農機センターで、24日(木)と25日(金)に雄和農機センターで秋物農業機械展示会が開かれました。秋作業を控えた生産者が多く訪れ、コンバインやトラクター、管理機などの最新機種が並ぶ会場を巡りました。来場者は農機センターや各メーカーの担当者に性能や操作方法などといった機種による違いを聞いたり、所有している農機具に合う部品を尋ねたりしました。買い替えなどの相談や、最近の農作業の進捗状況を話し合う様子もありました。

☑️生産者らが農機を見る展示会場